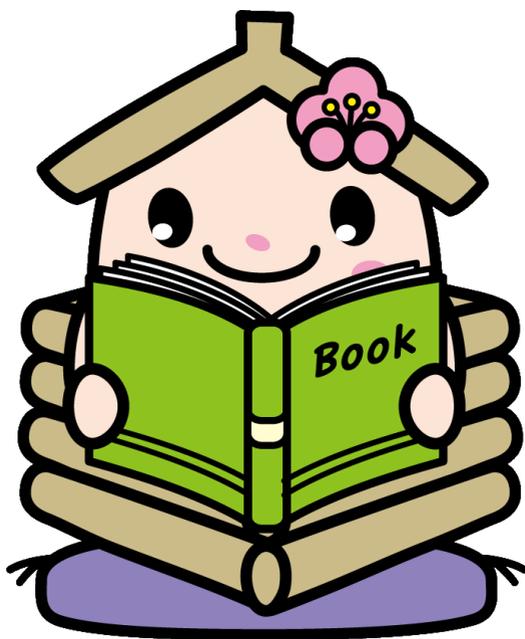


小学校3・4年生におすすめの本
2020

ブック セレクション



酒々井町立図書館

『きみとぼく』 913イ

今江祥智／さく BL 出版

シロサイのライノはおしゃべりすぎて友だちがいません。たいていどのサイも2・3羽のサイトリと暮らしていますが、ライノをうるさかって半日もせなかにいてくれません。ある日、ライノは近眼（ちかめ）で役に立たないと嫌われるサイトリのジーナに出会います。まわりの仲間たちとちょっと違い、ずっとひとりぼっちだった二人はやがて友達になり…。



『今日からは、あなたの盲導犬』

日野多香子／文 岩崎書店 知Eマ

盲導犬を育てる仕事について原さんが、1頭の盲導犬を育て、目の見えない人に歩行訓練をして社会に送り出すまでを写真でレポート。アイメイト協会で1000頭目の盲導犬となるセロシアは、大石さんとお互いに良い相棒としてやっていけるのでしょうか。



『ジンベエザメのはこびかた』 Eマ

松橋利光／写真 ほるぷ出版

水族館で見られる魚たちはどうやって運ばれてくるのでしょうか。全長5メートル、体重およそ1トンもある世界一大きな魚、ジンベエザメが高知の海から大阪まで15時間くらいかけて運ばれます。「はこぶ」プロの人たちの仕事の様子を紹介します。



『すみれ島』 Eマ

今西祐行／文 偕成社

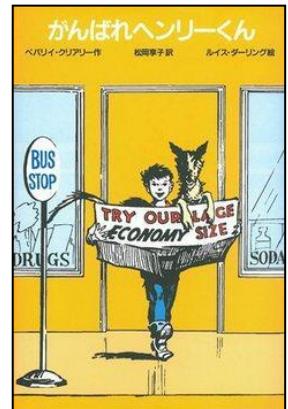
もし、自分が確実に死ぬとわかった時、人は何を考え、何を想うのでしょうか。人は非日常に出あって初めて、日常のすばらしさを知る。戦争のすべてを知ることはできないけれど、国のために命をささげた人がたくさんいたことを、すみれの花と一緒に思い出してもらえたら…。



『がんばれヘンリーくん』 933ク

ベバリイ=クリアー／作 学研

小学3年生のヘンリーくんはある日、街角でガリガリのやせ犬・アバラーを拾います。バスに乗って連れて帰ろうとしますが、ばれて大騒ぎになった話、ペットショップでグッピーを1つがい買って何百匹にも増えてしまった話、友達の大切なボールを無くしてしまい、弁償するために釣りの餌に使うミミズを1319匹もつかまえた話など、ヘンリーくんのまわりで起きる出来事が楽しく描かれています。



『コトノハ町はきょうもヘンテコ』

屋田弥子／作 光村図書出版 913ヒ

主人公は小学生の女の子レンちゃん。彼女の住む町はちょっとヘンテコ。やわらかそうな道草をむしゃむしゃ食べたり、ひざがプハハと笑ったり、穴があくほど見つめると地面に穴があいたりします。ことわざや慣用句が言葉どおりになっちゃう、コトノハ町のヘンテコなお話。

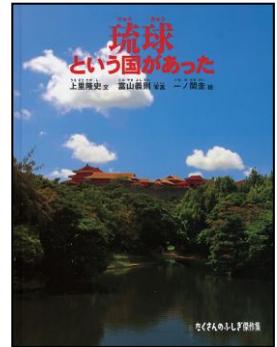


『琉球という国があった』 219ウ

上里隆史／文 福音館書店

昔、沖縄は琉球王国という独立国でした。王様が国を治め、日本や中国など、外国との貿易でとても栄えていました。小さな島国にすぎない琉球王国が繁栄を続けた理由とは？

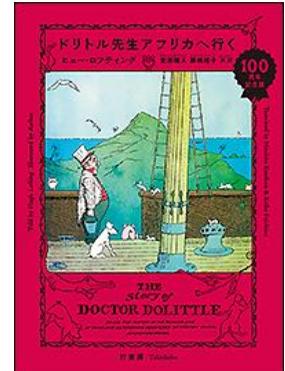
美しい写真やイラストとともに、その歴史をひもといいていきます。2019年10月に火災にあった首里城のことも紹介されています。



『ドリトル先生アフリカへ行く』 933 □

ヒュー・ロフティング／著 竹書房

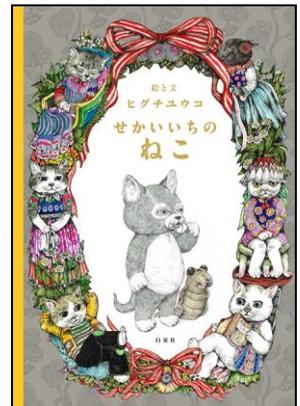
むかしむかし、私たちのおじいさんが子どもだった頃、医学博士のドリトルという先生がいました。ドリトル先生は動物が大好き。オウムのポリネシアから動物語を学ぶと、伝染病で苦しむサルたちを救うためアフリカへ渡ります。みんなから愛されるドリトル先生が世界中を旅する物語です。



『せかいいちのねこ』 913ヒ

ヒグチユウコ／絵と文 白泉社

持ち主の男の子が大きくなって、ずっと一緒にいたいぬいぐるみのニャンコ。世界一のねこに、本物のねこになりたいと願い、旅に出ることに。旅先で出会う本物のねこたちとの心温まる物語。けなげなニャンコの表情や、ページのすみずみまで、ていねいに描かれている絵にもご注目！



『おどろいたりす』 Eイ

イーラ／写真 文遊社

都会の高いところでいっしょに住むりすとねこがいました。遊びまわるのに大いそがしで外の世界のことなど考えたこともありません。そんなある日、りすはねこに言いました。「ぼくはせかいをみにいくよ。」外に出たりすにはどんな世界が待っているのでしょうか。愛らしい動物たちが登場する写真絵本です。



『希望の図書館』 933ク

リサ・クライン・ランサム／作 ポプラ社

母を亡くしたラングストンは引っ越してきたシカゴの町でだれもが自由に入れる図書館を見つけ、そこで自分と同じ名の詩人の本を見つけます。いじめっこがいる学校、母さんがいない寂しさなど、つらい気持ちを忙しい父に相談できずにいましたが、読書の喜びを通じて小さな自信と生きる勇気を手に入れていく少年の物語です。



『本気でやれば、なんでもできる!?!』

ジョン・ヨーマン／作 徳間書店 933ヨ

小学3年生の男の子ビリーは、授業に集中するのが苦手です。でも先生からはげまされ、「本気でやればなんでもできる」気持ちになります。本気になったビリーは友達と「頭から角をはやす」約束をします。自分で決めた占いを信じて朝起きると、頭にこぶができていて…。



『長くつ下のピッピ』 949リ

アストリッド・リンドグレン／作 岩崎書店

9才のピッピは、世界一強い女の子。ごたごた荘で、サルのニルソンさんと馬といっしょに暮しています。ピッピはサーカスで大男とレスリングをして勝ったり、どろぼうをつかまえてダンスの相手をさせたり、元気に大かつやくします。

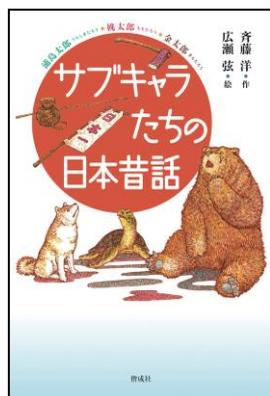


『サブキャラたちの日本昔話』 913サ

斉藤洋／作 偕成社

「桃太郎の家来たちは、なぜ命がけの鬼退治にきびだんご1つでついてきたの?」「乙姫様はなぜ浦島太郎に玉手箱を持たせたの?」

物語の脇役「サブキャラ」である桃太郎のイヌ、浦島太郎のカメ、金太郎のクマが昔話の知られざる真実を語ります。おなじみの昔話を、いつもとはちがう角度からのぞいてみませんか?



『海のプラスチックごみ調べ大事典』

保坂直紀／著 旬報社 519ホ

私たちの身の回りにたくさんあるペットボトルやレジ袋などのプラスチック製品。便利な一方、正しく捨てられなかったプラスチックごみによって海の生き物たちが苦しんでいます。「プラスチックごみの何が問題なの?」「そもそもプラスチックって何?」「このまま増え続けるとどうなるの?」そんな数々の疑問について、イラストと写真でわかりやすく解説します。



『家をせおって歩く』 702△

村上慧／作 福音館書店

白い小さな発泡スチロールの家を人が背負って歩いています。日本各地や外国での移住を楽しみながら、見たものや聞いたこと、どんな人と出会い、何が起こったかを記録しています。自由な発想と実際の行動が面白く、わくわくする旅絵本です。



『エベレスト』 292フ

サングマ・フランシス／文 徳間書店

世界一高い山、エベレスト。その山はいつ頃どのようにしてできたのでしょうか。そして世界中の登山家たちは、どのように厳しい試練を乗り越えて、山頂を目指していったのでしょうか。

山の成り立ちから気候、生息する特有の動植物、人々の想いなど、様々な視点から魅力を探っていきます。



『食虫植物のわな』

虫を食べるふしぎな植物のおはなし』

木谷美咲／文 偕成社 471キ

食虫植物は、葉の一部を「わな」に変化させ、虫を捕まえて、その栄養を吸収します。虫からみるととても怖いおはなしですが、植物からみると長い時をかけた戦いの物語でもあるのです。

食虫植物のことがまるごとわかる1冊。あなたも食虫植物を育ててみたいくなるかもしれません。

